

鹿児島県三島村竹島の昆虫（2023）

守山 泰司¹

Insects Collected on Takeshima Is. (Mishima Islands) in 2023

MORIYAMA Taiji¹

Abstract : The first survey of butterflies in three years was conducted on Takeshima Is., Mishima Village, and 16 species were confirmed. Of these, the confirmation of the *Everes lacturnus* (Lepidoptera : Lycaenidae) for the first time in 11 years is considered a noteworthy achievement. The number of established species on Takeshima Is. had been 17, but based on the results of this survey, we added the *Kaniska canace* (Lepidoptera : Nymphalidae) to the list of established species, bringing the total to 18.

はじめに

鹿児島県三島村は薩摩半島と屋久島との間、南西諸島の最北端に位置しており、東から竹島、硫黄島、黒島の有人3島からなる。昆虫相の調査はまだまだ不十分な地域であるが、クワガタムシの乱獲に端を発する三島村昆虫保護条例制定（2006年）により、記録の集積が難しくなっている。鹿児島県立博物館ではその収集、発表を目的として継続調査を行っていたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延により2020年から中断を余儀なくされていた。2023年、3年振りに調査が再開できることになり、定着種の動静と新たな確認を目的に、チョウ類を中心とした調査を竹島で行った。黒島、硫黄島での調査も計画していたが、天候等の要因により断念したため、本年度の調査はこの竹島の調査だけであった。

なお、今回の調査にあたり便宜を図って頂いた三島村に深く感謝する。

1. 調査日程

9月30日：鹿児島港（9:30）―〈フェリーみしま〉→

竹島港（12:35）

12:45に宿を出て集落内を見廻ったのち、みしまふれあい広場（竹島体育館）を往復、次いで佐多浦牧場を往復、さらにオンボ崎を往復、最後に集落内を見廻って宿に戻った（18:00）。

10月1日：

8:00に宿を出て集落内を見回ったのち、東風泊港上の舗装路の終点まで行き、少し引き返して農道を南に進み籠港上に、東側の農道（図1にはない）を北に戻り前述の舗装路に戻り、集落内を見廻ったのち宿に戻った（10:40）。

両日とも調査はすべて徒歩でおこなった。

竹島港（10:55）―〈フェリーみしま〉→鹿児島港（2:05）

2. 調査者

守山泰司：鹿児島県立博物館外部協力者、鹿児島昆虫同好会会員

3. 調査結果

9月30日は晴天で絶好の調査日和であったが、10月

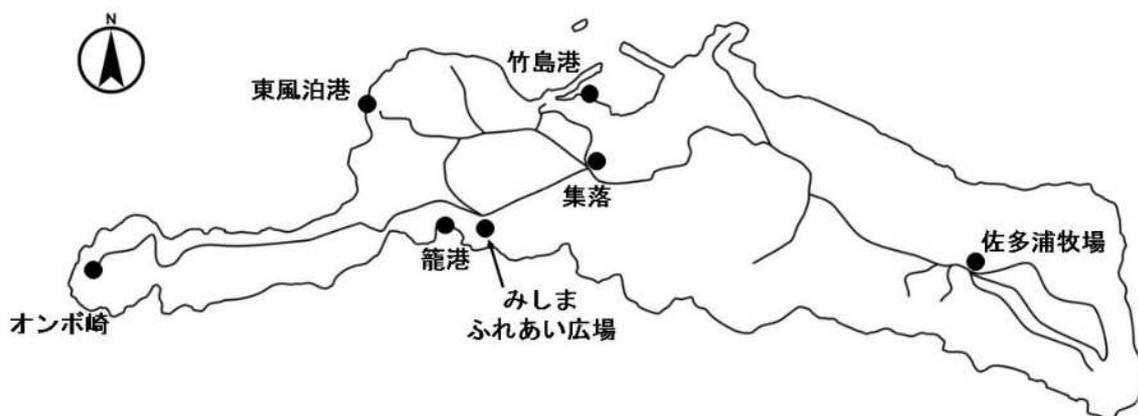


図1 竹島調査地

1日はほとんど日差しがなく、島を発つころには雨も降り出し、前日と比べて花を訪れるチョウも少なかった。

トンボの同定は、鹿児島県農業開発総合センター大島支場長の松比良邦彦氏に、蛾類の同定は、鹿児島昆虫同好会の二町一成会長を介して日本蛾類学会の岸田泰則会長にして頂いた。各氏にお礼申し上げる。

*は今回の調査でとくに気をつけていたが、見られなかった種。なお、採集年はすべて2023年、採集者は守山泰司なので省略した。

蜻蛉目（トンボ目） Odonata

トンボ科 Libellulidae

- ・ハネビロトンボ *Tremea Virginia*
集落～佐多浦牧場（9月30日、1♂）、籠港上～オンボ崎（9月30日、2♂）
竹島初記録。次種に混じって飛翔していた。
- ・ウスバキトンボ *Pantala flavescens*
各所で群飛していた。
- ・ベニトンボ *Trihemis aurora*
集落～佐多浦牧場（9月30日、1♂）

半翅目（セミ目） Hemiptera

セミ科 Cicadidae

- ・ツクツクボウシ *Meimuna opalifera*
集落～佐多浦牧場（9月30日、1♂1♀）
- ・クロイワツクツク *Meimuna kuroiwae*
集落～佐多浦牧場（9月30日、1♂）
セミ類で鳴き声を聞いたのはこの2種だけであった。本種は島内各所で鳴き声が聞かれたが、前種は局所的であった。

鱗翅目（チョウ目） Lepidoptera

アゲハチョウ科 Papilionidae

- ・アゲハチョウ *Papilio xuthus*
集落（9月30日、1♂1♀）
シロノセンダングサを訪れているものなど各所で見られ、多かった。カラスザンショウはやや局所的ながらも幼木から高木まで見られ、それで発生しているであろう。ハマセンダンは見えていない。
- ・ナガサキアゲハ *Papilio memnon*
集落（9月30日、1♂）
ほかには見えていない。島内にはミカン園は見当たらず、人家の庭に植栽されているものを何本か見かけただけである。放棄され野生化したものがあれば発生源となっているであろうが、なければ定着していない可能性も否定できない。
- ・モンキアゲハ *Papilio helenus*
集落（9月30日、1♂）
各所で見られたが、少なかった。栽培ミカン類はほとんど見かけないので、アゲハチョウとともにカラスザンショウを発生源としているのであろう。

*キアゲハ *Papilio machaon*

竹島では記録がないが、三島村では黒島に定着している。路傍には黒島や種子島・屋久島で主要な食餌植物となっているボタンボウフウが見られ、幼生期も注意して探したが見つけれなかった。

シロチョウ科 Pieridae

- ・キタキチョウ *Eurema mandarina*
集落（9月30日、1♂1♀）、籠港上（10月1日、1♂）
このほか1頭目撃しているだけで、少なかった。

シジミチョウ科 Lycaenidae

- ・ムラサキツバメ *Narathura bazalus*
集落（9月30日、1♂目撃）

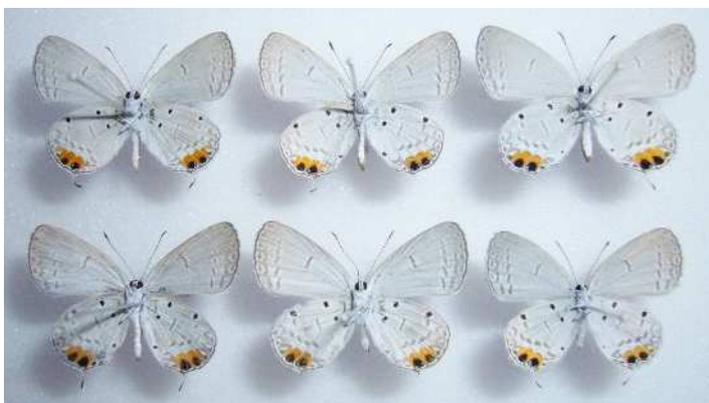


図2 竹島産台湾ツバメシジミ（裏面、左・中：♂、右：♀）



図3 同種が発生していたシバハギ群落

ほかには見ていない。竹島には食餌植物のマテバシイ、シリブカガシの記録がなく（初島，1986），定着種ではない。南西諸島では秋には南下してきたと思われる個体を目にする事が多いので，そのはしりだったのであろう。

・タイワンツバメシジミ *Everes lacturnus*

集落（10月1日，4♂2♀）（図2）

本種は鹿児島県レッドデータブックでは絶滅危惧 I 類とされており，近年は隣接する薩摩・大隅両半島南部や種子島・屋久島でも，その個体数の減少は顕著である。

竹島では 2005 年 9 月にはじめて記録され（藤田，2006），2012 年にも記録されているが（金井，2014），2015，16 年に訪れた際には見つけられなかった（福田ほか，2016；守山，2017）。今回，11 年振りに確認できたことは，特筆に値する成果といえよう。

食餌植物のシバハギは各所で見られ，以前訪れたときより増えている印象を受けた。本種が発生しても良さそうな環境も少なくはなかったが，確認できたのは 1 箇所だけであった（図3）。

・ヤマトシジミ *Zizeeria maha*

各所で普通に見られた。

・ウラナミシジミ *Lampides boeticus*

集落～佐多浦牧場（9月30日，1♀），籠港上（10月1日，1♀）

ハマナタマメの群落周辺でのみ，少数見られた。

・クロマダラソテツシジミ *Chilades pandava*

集落（10月1日，1♂目撃），集落～佐多浦牧場（9月30日，1♀目撃）

ほかには見ていない。ソテツは学校など集落内に植栽されているが多くはなく，大発生はできないのであろう。

*アマミウラナミシジミ *Nacaduba kurava*

集落およびその周辺には食餌植物のモクタバナが散見される。同年 9 月 24 日に薩摩半島南西端の野間岬を訪れたときに多数の本種を確認していたので，竹島でも当然発生していると思っていたが，注意して探したにもかかわらず見つけられなかった。

タテハチョウ科 *Nymphalidae*

・ヒメアカタテハ *Vanessa cardui*

東風泊港～籠港（10月1日，1♀）

次種とともにシロノセンダングサを訪れていたが，少なかった。

・アカタテハ *Vanessa indica*

各所のシロノセンダングサに多数の本種が訪れていた。また，カラムシに産卵している個体も確認している。

・ルリタテハ *Kaniska canace*

集落（9月30日，2♂），籠港上（9月30日，1♂，亜終齢幼虫 1ex.：ハマサルトリイバラ；図4）

ほかにも成虫を数頭目撃している。幼虫はハマサルトリイバラを与えて屋内で飼育したところ，10月18日にメスが羽化した。定着か偶産かの判断を保留していたが（福田ほか，2016），定着していると考えて良さそうである。

・アオタテハモドキ *Junonia orithya*

集落（9月30日，4♂1♀）（10月1日，1♀目撃），籠港上（9月30日，1♂），集落～佐多浦牧場（9月30日，1♂2♀）

シロノセンダングサを訪れているものなどを採集した。迷チョウであるが，近年は屋久島以北での採集・観察例が著しく増加し，種子島（尾形，2021）・屋久島（守山，2019）では越冬も報告されており，現在一時的に定着していると思われる。新鮮な個体が多く，食餌植物のキツネノマゴとオオバコを確認しており，それらを利用して発生した可能性が高い。今後もその動静に注視したい。

・ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius*

各所で見られたが，少なかった。

*クロコノマチョウ *Melanitis phedima*

竹島では記録がないが，三島村では黒島・硫黄島に定着している。食餌植物のイネ科は豊富にあるので，生息して当然と思われるのだが。本種が活発に活動する日没前後に好そうな場所を廻ったが見つけられなかった。腐果トラップを用いた調査が必要かもしれない。

セセリチョウ科 *Hesperiidae*

・チャバネセセリ *Pelopidas mathias*

集落（9月30日，1♂1♀）

次種とともにシロノセンダングサを訪れているものを採集した。集落内ではほかに見かけなかった。他所のシロノセンダングサでも見られたが，少なかった。



図4 ハマサルトリイバラ葉上のルリタテハ亜終齢幼虫

・イチモンジセセリ *Parnara guttata*

集落 (10月1日, 2♂), 東風泊港~籠港 (10月1日, 1♀)

集落内のシロノセンダングサには非常に多かったが, 他所ではほとんど見かけなかった。

*クロセセリ *Notocrypta curvifascia*

竹島では記録がないが, 三島村では黒島に定着している。集落内には食餌植物のゲットウが少なくなく, 幼虫を探したが見つけられなかった。個体数の多い6月や8月の調査が望まれる。

スズメガ科 *Sphingidae*

・ホシホウジャク *Macroglossum pyrrhosticta*

集落~佐多浦牧場 (9月30日, 1♀), 籠港上~オンボ崎 (9月30日, 2♀)

シロノセンダングサ, ウラジロフジウツギの花を訪れているものが多数見られた。

まとめ

今回の調査で16種のチョウ類を確認した。

これまで竹島では27種のチョウ類が記録され, そのうちアゲハチョウ科4種, シロチョウ科2種, シジミチョウ科4種, タテハチョウ科5種, セセリチョウ科2種の17種が定着種とされている (福田ほか, 2016)。今回の調査で, それらのうちアオスジアゲハ, モンシロチョウ, ルリシジミ, イシガケチョウ, アサギマダラの5種を除く, 12種を確認できた。ルリタテハはこれまで竹島における定着を保留としていたが, 今回成虫, 幼生期とも確認していることから定着種に加え, 竹島の定着種は18種としたい。しかしながら, 今回確認できなかった5種のうち, モンシロチョウ, ルリシジミは年間を通じた食餌植物があるのか, アサギマダラは高い山のない小さな島で夏季を過ごすのか, それらを勘案すれば定着していない可能性も否定できない (表1)。

表1 竹島のチョウ類分布表

○は定着していると判断した種, ◎は定着しているか判断できない種, ●は迷チョウを示す

	福田ほか (2016)	本報	備考
アオスジアゲハ	○		
アゲハ	○	○	
ナガサキアゲハ	○	○	食餌植物となる栽培ミカン類は少ない?
モンキアゲハ	○	○	
シロオビアゲハ	●		
カラサアゲハ	●		
モンシロチョウ	○		アブラナ科野生種の記録はない 家庭菜園程度しかなく, 食餌植物の ない時期があるかもしれない
スジグロシロチョウ	◎		
キタキチョウ	○	○	
ムラサキツバメ	●	●	食餌植物マテバシイとシリブカガシの 記録はない
ヤマトシジミ	○	○	
タイワンツバメシジミ	○	○	
ルリシジミ	○		年間を通じた食餌植物の確認が必要である
ウラナミシジミ	○	○	
アマミウラナミシジミ	●		食餌植物モクダチバナはある
ルリウラナミシジミ	●		
クロマダラソテツシジミ	●	●	
ヒメアカタテハ	○	○	
アカタテハ	○	○	
キタテハ	●		食餌植物カナムグラの記録はない
ルリタテハ	◎	○	今回の調査で定着種とした
アオタテハモドキ	●	●	
イシガケチョウ	○		食餌植物となるイヌビワ類は多い
ツマグロヒョウモン	○	○	
アサギマダラ	○		
チャバネセセリ	○	○	
イチモンジセセリ	○	○	

竹島での記録はないが、三島村に定着していると思われるものには、キアゲハ（黒島に定着，以下同じ），クロアゲハ（硫黄島，黒島），モンキチョウ（黒島），ウラギンシジミ（黒島），ツバメシジミ（黒島），タテハモドキ（黒島），クロコノマチョウ（硫黄島，黒島），クロセセリ（黒島）の8種が挙げられる。それらの食餌植物は竹島にもあり，定着あるいは一時的に発生しても不思議ではない。今回，キアゲハ，クロコノマチョウ，クロセセリの3種には特に注意していたが，残念ながら見つけることは出来なかった。三島村のチョウ相（昆虫相）を解明するために，今後も定期的に渡島して継続的な調査を続けることが必要と思われる。

引用文献

- 江平憲治 (2023) 鹿児島県のトンボ・資料編. 417 pp. 南方新社, 鹿児島.
- 藤田清和 (2006) 鹿児島県竹島でタイワンツバメシジミを採集. 蝶研フィールド, (238): 54.
- 福田晴夫・守山泰司・金井賢一 (2016) 鹿児島県三島村の硫黄島及び竹島のチョウ類 2015 年の調査結果とチョウ相成立史の検討. 鹿児島県立博物館研究報告, (35): 1-14.
- 初島住彦 (1986) 改訂鹿児島県植物目録. 290 pp. 鹿児島植物同好会, 鹿児島.
- 鹿児島県 (2006) 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 動物編—鹿児島県レッドデータブック 2016—. 401 pp. 鹿児島県環境林務部自然保護課, 鹿児島.
- 金井賢一 (2014) 2012 年 10 月硫黄島・竹島における昆虫記録. 鹿児島県立博物館研究報告, (33): 51-54.
- 守山泰司 (2017) 2016 年 9 月, 三島村竹島のチョウ. Satsuma, (158): 61-63.
- 守山泰司 (2019) アオタテハモドキが屋久島で越冬か. Satsuma, (163): 75-76.
- 尾形之善 (2021) 種子島で越冬したアオタテハモドキ. Satsuma, (167): 47.